

「日本の文化、医療制度を見直す時代」

日本の古代より受け継がれてきたよき文化は、終戦を境に失われ、米国流の民主主義、自由主義が広まって行った。それとともに国や公共の利益より、個人の利益が優先されるようになった。プライバシーという言葉も独り歩きするようになった。

明治初期に来日した外国人が目にして驚嘆した日本人の礼儀正さ、清潔さ、隣人愛、などは失われ、家長を中心とした家族主義も、個人主義に考えが変わっていった。親孝行などという言葉も余り聴かれず、死語になったのだろうか。

親が死ぬと相続問題で骨肉の争いが頻発するようになった。親は兄弟、姉妹で厄介者のようにたらい回しにされる場合もよく見かけられる。

最近になって日本古来の文化を見直し、日本人の誇りを取り戻すこと等を記載した出版物が見かけられるようになった。講演会や、テレビ、マスコミでも同様の記事が取り上げられるようになったのは、よい傾向である。私も、最近、運動を兼ねて、京都、奈良などの神社、仏閣を訪れるようになった。年のせいかと思っていたら、結構若い男女が訪れているのが見られた。日本の神道、仏教は日本の文化であり、聖徳太子の17条憲法の根本をなす和の精神は世界に誇れるものである。

先週、東京の日比谷公会堂で行われた、医療消費税公開セミナーで、ジャーナリストの堤美果氏は、米国では医療をビジネスにし、病院を利益最優先の株式会社化した結果、貧富の格差が激しくなり、中流階級の人でも、いったん病気になり、入院治療すると、例え保険があっても自己破産する人が頻発するようになったと話された。虫垂炎で入院手術をすると一日入院で100万円以上も請求されるとのこと。無保険者も5000万人に近づいている。失業率が9%にもなり、大学卒業しても職がなく、フリーターや路上生活者になるのが珍しくないそうです。医師の自殺率も高くなっている。医師、看護師の過重労働が問題となっているなど、我が国でも同様に病院医療崩壊が言われているが、アメリカの方がもっとひどいような印象を受けた。(堤美果、ルポ貧困大国アメリカー岩波新書)

我が国が憧れ手本にしてきた、古きよきアメリカはどこへ行ったのだろうか。考えてみれば日本は戦後65年平和を保ってきたが、アメリカは朝鮮戦争、ベトナム、イラク、アフガニスタンとずっと戦争を続けていることになる。何万、何十万の若者が戦死し、国民の疲弊、特に若者の精神的な苦悩が著しく、精神障害を訴える者が退役軍人の20%～

30%に増えているとのことである。日本人であること、平和憲法の有難さを感じる。

日本の医療保険制度は現在、高齢化と医療費高騰により歪みが来ているが、国民皆保険制度は世界が羨むよい制度であるため、是非守って行かなければならない。